

高退協 ニュース

高退協事務局

1981. 9.

No. 11

- ・教育大運動について
- ・県退協活動報告
- ・機関誌第二号へ
- ・第十四回定期総会報告
- ・アンケートのお返り
- ・図書の手いせん

非行低学力の克服をめざす 教育大運動に

ベテランの力を

英天下、高教組は教育懇談会や組織づくりを東奔西走。僅か二カ月ほどで、教育大運動は全県下にひろがりました。その背景には、

激増する校内暴力

史上最悪といわれる青少年犯罪は、年ごとに対応を更新し、なかでも校内暴力は、昨年前期より四四・七五もふえ、対教師暴力は二倍以上、しかも中学生がその九五を占めています。

ふえる高校中退者

昨年、高校の県立高の中退者は六〇六名、生徒総数の二・九で、全国平均の一・一多をはるかにこえており、その五六は一年生です。

しかも「今年の一年生はもっと指導が難しい」といわれ、高知でも中学生と中等教育の在り方が大きな問題になってきました。

なぜ、非行・低学力か

七〇年代に入って能力主義教育が宣言されると教科書は異常なまでにレベムアップ、半年かけて教えていたひらがなや掛算九九は一カ月に短縮されました。

多くの子どもたちがこの「新幹線授業」で振り落され、高校入試をひかえれた中学校で、更に振り分けられます。中学教師がいます。「非行は中学三年二期に頂点に達する。不安・焦燥・屈辱・冷遇を差別の宣言が終ったあと、彼らをおそるやるせない怒りと無力感が、彼らを非行に走らせる。」

さらに高知では

小学校から私立のエリート中学をめざす競争がはじまり、公立中の子どもは屈辱感がいやされぬ間に、また高校入試で振るわれます。しかも高知の高校制度は、大学区に近い「変型中学区制」で、高校の数が少ない学校格差が、子どもたちに優越感と劣等感をさみつけ、学習意欲を阻害しています。

意欲を育てる学校制度を

いま大切なことは、教師が結束して学校の教育力を高めること、父母と結んで家庭・地域の教育力を回復すること、そして子どもた

ちの意欲をはばむ高校制度を改善することです。これをやろうというのが教育大運動です。

当面、九月県議会に請願を行い、ひきつづき直接請求で「教育審議会」をつくらせ、高知の教育を再生させようというこの壮大な闘いに、若い力と結ぶ、熱達したベテランの力添えがぜひ欲しいのです。(高教組教文部長 南千加良)

県退教協の活動

高知県退職教職員協議会が完了してから一カ月余が経過しましたが、第一回の常任委員会が八月七日開かれ、組織確立や当面の運動方針などについて討議が行われましたので、そのアウトラインを報告します。

退職教職員の全国連絡協議会が結成されてから第十回の定期総会が七月二日開かれ、この組織は、全国から五十一名の代表が参集して、組織は拡大強化され、大きく前進しています。

この全国的な退職教職員の組織の県下の組織として県退教協が発足したのですが、県下のにはすでに、各郡段階で、退職者の組織が結成されていて(高校の場合には高退協、女の場合には退婦協など)県下の組織状況はあまり進展していないのが実情のようです。八月一日現在で一六六名の会員数が確認されましたが、緊急課題としてできるだけ早く各支部(郡単位)毎に組織を確立・拡大することが話され合いました。

この会加入の趣旨の中にある退職者共済加入の問題についても、全国的には一万二千人を突破、今年度目標を一七七千名にのぼっていることなどから、全県的に退職者の共済加入を積極的に訴えて、老後保障の斗いを共に進めることに当りました。

当面の運動のとりくみとして、九・一五の高令者集会の成功をめざすとくみ、県教組が提唱している教育大運動を積極的推進するとりくみが話されました。

予算としては、会費助成金二十五万円の枠内で、情宣活動その他事業費を保障してゆくことが確認されました。この協議会には、高退協としては副会長として西内満夫氏を執行部に送っています。そして会員各位が夫々自主的に、(二重)的な組織加入にはなりません(加入されるよう訴えています)。

退職協の統一方針として、高令者の所得保障として、次の四つの重要課題(年金・医療・雇用・住宅)の実現をはかるとあります。とくに医療保障の充実、福祉対策の充実などには、キメ細かい当面の要求を打ち出しています。民主教育の推進・平和憲法の擁護などと合せて、高令者の生活を守る運動が、この協議会の運動を通じて前進することを祈ってやみません。(富永 三雄)

「こうたいきょう」

機関誌 第二号へ

美しいものを見て「あー」といいたいものに触れて「ア」と叫びしびれて、しばらく、我を忘れ涙をこぼして、嬉しがる。そういう人はボケません。背すじのばして、胸を張り火の用心から、ゴミの世話どな丸様にも、世話かけずきちんと、身の回りを整える。そういう人はボケません。

新聞・雑誌をよく読んで新しいものを知ろうとし世の動き、人の心のときめき心を開き、感じている。そういう人はボケません。「心の絆」太くする。そういう人はボケません。

しめきり 九月末日
内容 自由
原稿用紙 十枚まで

(機関誌編集委員長 浜田昌俊)

第十回定期総会開催

退職教職員全国連絡協議会

去る七月二日午後一時より、日本教育会館にて、首題の会がありました。

経過報告の中で、本年度、広島県退教協・茨城高退教・高知県退教協が結成され、準備会は、青森・静岡・三重・鳥取で設置されたとのことでした。また、日教研「退職者共済」は、四月一日発足して、六月十六日現在で、加入者が一万二千人を突破したとの報告がありました。

第一号議案一九八一年度活動方針案は原案通り可決。第二号議案一九八一年度予算案「一〇八一万余円」も原案通り可決。第三号議案一九八一年度役員承認では、全協結成以来会長をされた、小林武氏が引退され、新会長に元日教組副委員長の岡本清氏(広島)が就任されました。また常任委員に、香川の北浜清一氏に替り、高知より津野義宣氏が承認されました。翌日は、年金・医療・福祉の統一要請二十二項目を以て、総理府・大蔵・厚生・自治の各省交渉をしました。(中略 欽志)

アンケートのお願い

退職後はお互いに関心ならずも疎遠になっていく方も多いと思います。しかし、長短はありましても同じ職場に居た方々、あるいは高教組の運動の中で知り合った方々の消息は、お互い息のある間は気になるものだと思います。気軽に、曇見無いを交換するくらいの気持ちで、アンケートに記入していただくようお願いします。近日発行予定の機関誌第二号の会員消息欄に掲載しますので、九月末迄にご送付いただければ幸いです。

尚、今回は、現場の方には却って失礼と思ひ、ご連絡申し上げません。悪しからず。

図書のすいせん

平野日出男先生は、障害児教育一筋三十年、教育現場で不動の信念と情熱で、教育実践活動を行なひ、昭和五十五年四月一日、高知ろう学校を最後、多くの仲間と惜しまれながら退職されました。以後、長年の実践活動を基礎に、今回、明治図書・ひまわり出版より、すぐれた本を出版されました。今年に国際障害者年、ぜひ一読をおすすめします。(事務局)

「私の重複障害児教育二〇年」
明治図書 定価、八〇〇円

一九八〇年(レンケター)賞に輝く重量・重複障害児教育の開拓者「子どもよ、たくましく」
ひまわり出版社定価、三〇〇円